

学年	教科等	単元名	児童	場所	指導者
6年	国語科	「読み取ったことや感じたことを表現しよう」	6年2組37名	6年2組教室	佐藤 裕行

育てたい資質・能力

◎国語科において育成を目指す資質・能力から本時にかかわる主な資質・能力

情報を多面的・多角的に精査し構造化する力**(思考力・判断力・表現力等)**

〈本時にかかわる主な資質・能力〉

多面的な視点で物事を捉え、事実と感想を区別し、自分の見方や感じ方が伝わるように、表現を工夫しながら文章を構成する力

1 単元について**(1)単元の目標と評価規準****【単元の目標】**

絵から読み取ったこと、感じたことが読み手に伝わる文章を書くことができる。

本単元は、学習指導要領「第5学年及び第6学年」の内容

B書くこと

- ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。
- イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。
- ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。
- オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
- カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

を受けて設定したものである。また、本単元では、芸術的絵画に触発される様々な自分なりの感じ方やものの見方を大切に、それを一定の全体的理解にまとめ上げ、相互に伝え合う学習活動である。重視したいことは、「様々な観点をよりどころにして、多角的、分析的に絵画と向き合うこと」「事実と自分が感じたこと（絵画のどの点に何を感じたか）を意味づけること」「自分の感じ方やものの見方を言葉で記述すること」である。（その手本が前単元の教材『鳥獣戯画』を読む）また、絵画の鑑賞文、解説文については個人で学習していくことになるが、その途中でも隣の友達やグループ等、必要に応じて学級でも交流していきたい。アクティブ・ラーニングの考え方に基づき、目的や必然性、必要感に応じて対話ができるようにしていく。価値観の相違を楽しんだり、表現の工夫を学んだりして、相互の個性を認め合えるようにしていきたい。

【評価規準】

【国語への関心・意欲・態度】	【書くこと】	【言語についての知識・理解・技能】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画に興味をもち、自分なりに絵から読み取ったことを伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵の中にある情報を、適切に区別したり関連付けたりしている。 ・ 絵から読み取ったことと、感じたことを区別して書いている。 ・ 自分の見方や感じ方が伝わるように、表現を工夫して書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句と語句との関係を考えながら、文章の中で使っている。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、国語の学習に対して意欲的に取り組むことができる。特に、作文や物語、本のPOPづくり等の「つくる」活動には積極的に言葉で表現しようとする力を入れて取り組んできた。日常実践については、5年生のときから書く力の向上のため、百マス作文や、授業では字数制限や条件を付けた文章を書くなどしてきたため、書くことにはさほど抵抗がない。6年生では、さらにレベルアップをめざし、200字意見文トレーニングを始め、自分の考えを表現できるようにしている。また、総合的な学習の時間（ドリーム）では、宿泊研修や幼稚園訪問などの体験してきたことをもとにして、ミニ新聞をつくり、多くの人に読んでもらうなど、5学年では教科領域に限らず「書く」活動を多く取り入れて実践してきた。個々の学力差は大きいものの、単元の課題を達成しようと努力することができる。しかしながら、考えたことから書くことを決め、目的や意図に応じて書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理することに課題がある。

(3) 指導の手立て

「西小美術展」に向けた課題を児童との対話の中で引き出し、その課題を解決するための計画を児童たちで作成する。その学習計画にそって、書く目的に立ち返りながら学習を進めることができるようにしていく。書く活動の中では、児童の必要に応じながら「鳥獣戯画」で学んだ見方・考え方や表現の工夫を活用したり、教科書にある表現の工夫、「言葉の宝箱」を活用したりできるような場を設定し児童が主体的・協働的に解決できるようにしていく。

児童の振り返りについては、「ふりかえりシート」を活用する。「ふりかえりシート」に毎時間記入することとし、「課題に対してどう向き合ったか。」や「次時の課題」、「気づき」等について、記入できるようにしていく。使用するシートは1枚ものとし、その児童が辿った学びの足跡を俯瞰できるようにする。これらの工夫により、「学びの自覚化」や「次時への意欲化」を図ることができると思う。

評価規準については、「表現を工夫して書く」ためにはどうすればよいかという部分での思考・判断を評価できるように設定した。また、ループリックを導入し、児童に「何ができれば達成できているといえるのか」を考えさせ、授業後には評価を行う。児童自身がより課題を意識した振り返りができると考える。

努力を要する児童への手立てとしては、その児童のつまずきを把握し、「サンプル文」や友達の実表現をヒントにしたり、対話をしたりする等の支援を通して、課題を解決できるようにしていく。

次	時	○学習活動	教師の評価規準（評価方法） ◇到達が不十分な児童への指導の手立て
つかむ・見通す	①	○絵から読み取ったことと、感じたことを書き出して、感想を述べ合う。 ○学習課題を設定し、単元の流れを確認する。 西小美術展開催に向けて、鑑賞文の表現をどのように工夫するといいいのだろうか。	㊦絵画に興味をもち、絵から読み取ったことを伝えようとしている。 (発言・ノート) ◇絵から感じたことを自由に話し合わせる。
	② ③	○絵を見て気づいたことや感じたことを整理し、書くことの本心を決める。	㊦絵画から読み取ったことを、事実と意見を区別したり、軽重を付けたりして、整理している。 (発言・ワークシート) ◇構成メモと付箋を活用し、全体を見通して事柄を整理させる。
調べる・考える	④	○自分の思いや意見を効果的に伝えるために、表現の工夫を考える。	㊦サンプル文を読んで、表現の工夫を探したり、その効果について考えたりしている。 (発言・ノート) ◇例文を提示し、表現の良さを確認させる。
	⑤本時 ⑥	○構成メモをもとにして、自分の考えを文章にまとめる。 ○文章を読み直して、校正や推敲をする。 ※2時間続きの1時間目が本時	㊦事実と感想を区別しながら、自分の見方や感じ方が伝わるように、表現を工夫しながら書いている。 (発言・作品) ◇構成メモを見て、どんな表現の工夫を取り入れるか、順序などを確認させる。
広げる	⑦	○友だちと作品を見て、感想や表現の優れたところについて伝え合う。 絵から読み取ったことと、感じたことを区別したり、表現を工夫することによって、相手に伝わる鑑賞文を書くことができる。	㊦書いたものを読み合い、絵の見方のよさや表現のしかたに着目して助言し合うことで、もの見方や表現方法を広げている。 ㊦友だちの考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点に気づいている。 ◇絵の見方、表現の工夫について感じたことを付箋に分けて書かせる。

3 本時の学習

(1) 本時の目標

事実と感想を区別しながら、自分の見方や感じ方が伝わるように、表現を工夫しながら鑑賞文を書くことができる。

(2) 本時の展開【7時間扱い 5本時・6／7時間目】*一単位時間レベルB-②(対話重視)

	子どもの活動	思考	☐教師の働きかけ ◆評価(評価方法)
導入 5分	1 前時の振り返り	全体	*単元の学習課題を意識させる。
	2 課題把握		
自分が選んだ絵の見方や感じたことを伝えるために表現を工夫しよう			
展開 60分	3 評価基準を設定する	個・グループ	*自分の評価の基準を立てさせ、学習のゴールを明確にする。
	4 構成メモを見て書くことをイメージする。	全体	☐構成メモを見て書くことを整理
	5 表現の工夫について整理する。 ・「 」を使ってみたい。 ・短い文で臨場感を出したい。 ・「問いかけ」を使って、読み手を惹きつけるようにしたい。 ・言葉の宝箱を使って書いてみたい。		☐表現の工夫について模造紙板書やノートを見て、どの表現の工夫を使うかなを確認させる。 ☐国語辞典を用意させ、いつでも使えるようにしておく。
	6 鑑賞文を書く ・付箋の内容を詳しく書く必要がある。 ・必要なものを整理しながら書いていこう。 ・同じ絵をについて書いている友達はどうな風に書いているのかな。 ・初めの部分を書いてみたから、まず先生に読んでもらおう。 ・ここに表現の工夫を使うことができそうだぞ。	個やペア・グループ	*交流が必要になったときは、自発的に交流し、書き方や表現について学んだり、参考にしたりできるようにする
7 校正・推敲 ・間違いがないか確かめよう。 ・事実と意見・感想はしっかり区別されているかな。 ・他の表現の工夫は使えないかな。	個やペア・グループ	◆事実と感想を区別しながら、自分の見方や感じたことが伝わるように表現を工夫して鑑賞文を書いている。 (原稿用紙) ☐自分の思いや絵の見方が表現を工夫することで、よりよく伝わるように推敲する	

改善ポイント①

自分が使った表現の工夫をシェアするコーナーがあったり、絵を囲んで話し合えるような場の工夫があったりするとよかった。

終末 15分	8 交流	全体	□できたものを数名発表させ、よさを出し合う。
	9 本時のまとめ	全体	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>例文などから学んだ表現の工夫等を使って表現することで、自分が伝えたい文章を書くことができる。</p> </div>		
10 自己評価	個	*自分の立てた基準に照らして評価させる。	

(3) 本時の評価

◇評価規準の具体 (評価方法～発言, 鑑賞文)

【書くこと】

十分に満足できる (A): 事実と感想を区別し、自分なりに表現方法を工夫しながら、自分の感じたことや絵の見方を効果的に伝わるように書くことができる。

おおむね満足できる (B): 事実と感想を区別して、学んだことを参考にしながら、表現を工夫して自分の伝えたいことを書くことができる

努力を要する児童への指導: サンプル文をもとにした穴埋め式のシートや文章を書くためのフローチャートを用意して支援する。



4 取り入れたアクティブ・ラーニングの視点と授業改善のポイント

(1) 授業のねらい

【アクティブ化シートB-②（対話重視）】

～表現の工夫を活用し、自分の見方や考え方が伝わる鑑賞文を書く～

これまでに児童は、絵から感じたことや読み取ったことを構成メモに付箋で整理している。また、『鳥獣戯画』を読むことや例文から、絵を見る視点や表現の工夫を学んでいる。

本時では、単元のゴールである「西小美術展」を意識させ、相手や目的を確認し、書く意欲を高めたい。そして、本時の課題を児童から引き出した後、児童自身に評価の尺度（ルーブリック）を設定させる。そうすることで、本時の目標が明確になり、主体的な活動になると考えた。また、書く活動においては、児童の必要に応じて対話ができるようにする。対話の中で、友達によって絵を見る視点やそのことから読み取れること、絵から感じ取ったことに違いがあることに気付かせたい。そのことにより、自分なりの絵を見る視点や分析・解釈を精査できるようにしていきたい。また、『鳥獣戯画』を読むことで学んだ「表現の工夫」をどこでどう活用するのか吟味し、自分の感じたことや読み取ったことが相手に効果的に伝わるような表現へつなげることができるようにしたい。

(2) 成果

- 単元のゴールに「西っ子美術展」を設定し、「友達や5年生に絵を見て感じたことや読み取ったことを伝えたい。」という意欲を高めたが、学習を重ねていってもその相手意識や目的意識を見失わないようにするため、毎時間確認するようになってきた。本時でも授業の導入で、学習のゴールについて確認することを通して、児童が相手意識、目的意識をもって活動することができた。
- 交流の時間を教師がコントロールせず、児童が必要だと感じた時に自由に交流できるようにした。学習形態も3人一組の少人数グループとし、対話をしやすい環境を整えた。そのことにより、必要感のある対話が生まれた。
- 授業の前段で、児童は「S」「A」「B」の3段階で評価の尺度を設定した。評価の基準を明確にすることで、「S」を目標に活動を進める児童の姿が見られた。このことを通して、より効果的な「表現の工夫」を使おうとしていた。

(3) 改善

改善のポイント①

より活発な交流を図るためには、交流しやすい環境を整える必要があった。自分が使った表現の工夫をシェアするコーナーを設けたり、絵を囲んで話し合えるような場の工夫があったりとよかった。